

カワウの胃内容物調査

近年、岡山県の内水面漁業の漁獲量は減少傾向にあります(図1)。この減少には、様々な要因が複合していると考えられますが、その一つとしてカワウによる食害が挙げられています。

岡山県では、平成6年頃からカワウによる漁業被害が報告されるようになったため、平成14年からカワウに関する調査を開始しました。そのうち、水産研究所では食害の実態調査の一環で、カワウの胃内容物調査を担当していますので、今回は、平成29年度の調査結果について紹介します。

平成29年度には、旭川と高梁川水系で捕獲した46羽のカワウの胃内容物を調査しました。

調査では捕獲したカワウの胃を取り出して切開し、その内容物の種類を肉眼で判別して集計しました(写真)。その結果を種類別の出現頻度にまとめ、図2に示しました。胃内容物の上位5種は、カワムツ、カマツカ、ギギ、オイカワ、ハゼ科でほとんどは魚類で占められていましたが、中にはザリガニやシジミ、石なども検出されました。これらは、おそらく誤って摂食してしまったものと考えられました。しかし、川の漁師さんがよく話されている「カワウが来て、アユをたくさん食べる」といった状況は、この調査からは確認できませんでした。

この胃内容物調査は、カワウによる食害の程度を調べるために行っていますが、今後ともカワウ被害の実態を明らかにするため、継続した調査を実施したいと考えています。

(内水面研究室 杉野)

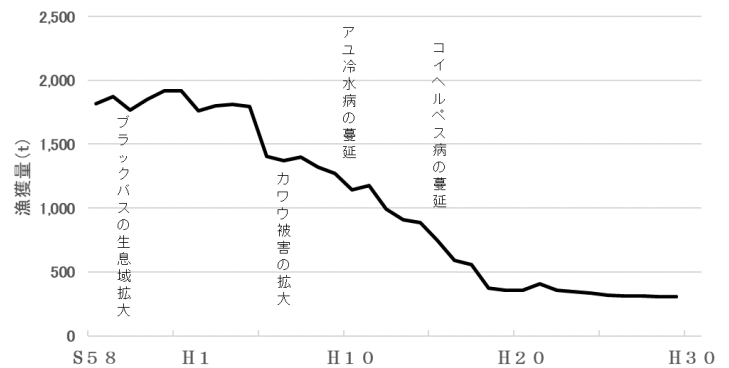


図1 岡山県の内水面漁獲量の推移



写真 カワウの胃内容物(フナなど)

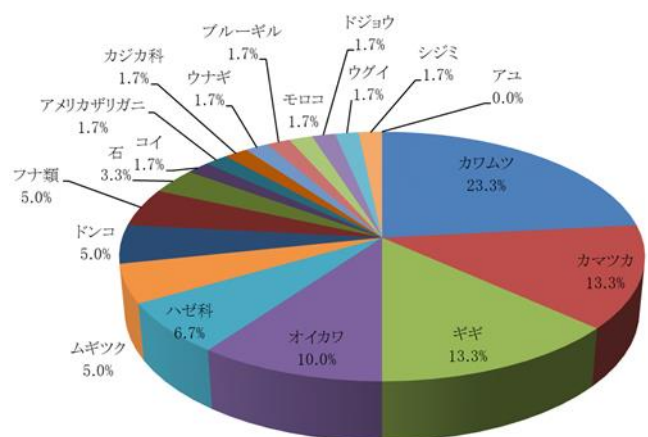


図2 カワウ胃内容物の種類別出現頻度組成